

R4年1月14日



1月に入ってもう2週間が終わりますね。何だかとても早く感じます。そして、ここ2、3日大変寒い日が続いていますね。オミクロン株の感染拡大も心配です。体調管理には十分注意してくださいね。

ところで、授業の内容が保育分野になりましたので(まだ保育分野に移っていないクラスもありますが…すみません。)、この内容に関連して、私が学生時代に読んで衝撃を受けた詩を紹介したいと思います。

「I was born」という、吉野弘さんの詩です。よく知られている詩なので、読んだことがある人もいます。あらすじを少し……

英語を習い始めて間もない「僕」は、お父さんと歩いているときに、前から歩いてくる妊婦さんを見て、そのお腹の中の子のことを想像する。「生まれる」という表現は、英語では受け身形なんだ、「生まれさせられる」んだとその時ふと納得し、お父さんにその思いをついたことを話す。そうすると、お父さんはしばらく黙って歩いた後に、思いがけない話(蜉蝣(カゲロウ)の話)をし始める。…蜉蝣は、生まれて2～3日で生涯を終える。拡大鏡を通しそれを見ると、蜉蝣の雌は口が全く退化し、食物を取るのに適しない。胃の中は空気のみ。しかし卵だけが腹、そして胸の方までぎっしり及んでいる。繰り返される生き死にの悲しみが喉元までこみ上げているように見えた。“淋しい光の粒々”だった。…そのような話の後に、「僕」を生んで、すぐにお母さんが亡くなったということを知らされる。

という詩です。うまく伝わらないかも知れませんが、すみません。(興味のある人は読んでみてください。)私は、これを初めて読んだときに、心がぎゅっと痛み、苦しい気持ちになりました。国語的なことは何もわからないのですが、無邪気に話していた「僕」がお父さんの話を聞いて気持ちが大きく揺さぶられる様子が伝わってきて、何とも言えない気持ちになりました。「何のために生きているのか？」など答えがすぐ見いだせないようなことを考えていた時期に、このような詩などを読んで大人になりかけの自分の心の動きを色々感じたり、落ち着かせたりしていたのかもしれない。

また、ある時、学生時代の先生が偶然にも、「『君たち、何のために生きているのだろうか？』と考えたりしたことはないか？それはただ生きているだけ、それだけなのだよ。」と話されたことがありました。私にとっては何だか哲学的に聞こえ、今でもその言葉をふと思い出しますが、恥ずかしながら、何となくわかるような、わからないような…というのが正直なところで、自分の中にしっかり落とし込んだというところには至っていません。けれどもこのように生きてきた中で、一人ひとりがどれだけかけがえのない存在であるのかは、理解できる歳になりました。命が生まれるのは奇跡的なことであり、一人ひとりかけがえのない、大切な存在です。自分を大切に、そして周りの人も大切にする、それが生きていくことなのかなあ。と自分なりにとらえています。

みなさんは、一人ひとりかけがえのない存在です。まず自分を大切にしてくださいね。自分を大切にするというのは、心も体も大切にすることです。辛くなったときには、「きみはきみのままでいいんだよ。」と自分を俯瞰(ふかん)して励ましてみる、前向きになってみることも大切な。と思います。(自分だけでは耐えられない場合は、遠慮なく周りに相談することも忘れずに…。)そして、周りの人を見渡してみる。ちょっとした声かけや支えが大きな力になることもあります。周りがみえる、気づくことが大人に近づくということなのかもしれませんね。お互いさまの気持ちで支え合い、共に前へ進んでいきましょう。

【週行事予定】

月	日	曜	行事予定	FT	課外	備考
1月	15	土	大学入学共通テスト			
	16	日	大学入学共通テスト			
	17	月	FT: 数学	○	B	7:25 登校
	18	火		○	B	7:25 登校
	19	水	派遣委員会Ⅶ 15:30-	○	B	7:25 登校
	20	木	⑦ゼロ学期集会(1・2年)	○	B	7:25 登校
	21	金	生徒会交流会(午前)	○	B	7:25 登校
	22	土	土曜講座A(講座制) 英検1次Ⅲ	○	B	8:15 登校
	23	日				
	24	月	FT: 数学	○	C	7:25 登校
	25	火		○	C	7:25 登校
	26	水	職員会議	×	C	7:25 登校
	27	木	⑦FT人権教育 セルフチェック	○	C	7:25 登校
	28	金	FT: 英語	○	C	7:25 登校

